

第15分科会 環境問題と教育

自己を見つめ、心豊かに、ともによりよく生きる子どもの育成

—エコプロ2018への参加を通して—

1. 設定理由

現在、自然現象や人間の関わりによる環境汚染や温暖化による自然破壊など地球環境の悪化が深刻化し、環境問題への対応が人類の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題となっている。豊かな自然を守り、私たちの子孫に引き継いでいくためには、エネルギーの効率的な利用など環境への負担が少なく持続可能な社会を構築することと現在の自然環境の保全を真剣に考える児童の育成が大切である。

しかし、児童は「住みやすい街ナンバー1」と言われる街に住み、自然とも触れ合えて便利さも兼ね備えていることが当たり前の日常を過ごし、地域の良さを意識することも少ない。また、地球環境の現状を知りつつも自分たち目の前の環境について関心を寄せることなく生活をしている。

そこで、年間を通して教科・領域の中で環境教育を意識して連携することで、児童たちが地球環境の現状に課題意識をもって見つめ、身近な環境の改善のために小学校5年生として、何ができるかを考えさせ、切実感をもって自分にできることを実践していく姿勢が必要であると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

エコプロ2018への参加を通して、児童相互の積極的な関わりを生み出すような活動の場を工夫すれば、身近な環境について主体的に考え議論し、自己のよりよい生き方について考えが深まるであろう。

3. 研究内容

○総合的な学習を通して、身近にある環境について興味をもてるように工夫していく。

○外部人材の活用をする。

4. 結論

○今まで環境について多くの児童が深く意識することなく生活してきたが、自分たちの生活を取り巻く地域の良さを再確認するなど「環境」についての意識が高まった。

○総合的な学習の時間を軸にした、他教科・領域の横断的なつながりを大切に、年間指導計画を確認したことで、学びをつなげながら、自らの考えを深め、広げる姿が見られた。

○外部人材の活用では、児童の発達段階や各教科の指導内容など事前に連絡し合うことで、児童の実態に合わせて限られた時間の中で充実した活動を行うことができた。

○他教科・領域と環境教育との関連を図り、環境教育の視点をもって実施できるよう発信していくことが必要である。

印旛支部

印西市立原小学校

猪瀬裕子

阿部桃香

1 研究主題

自己を見つめ、心豊かに、ともによりよく生きる子どもの育成
～エコプロ2018への参加を通して～

2 主題設定の理由

(1) はじめに

現在、自然現象や人間の関わりによる環境汚染や温暖化による自然破壊など地球環境の悪化が深刻化し、環境問題への対応が人類の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題となっている。豊かな自然を守り、私たちの子孫に引き継いでいくためには、エネルギーの効率的な利用など環境への負担が少なく持続可能な社会を構築することと現在の自然環境の保全を真剣に考える児童の育成が大切である。

しかし、児童は「住みやすい街ナンバー1」と言われる街に住み、自然とも触れ合えて便利さも兼ね備えていることが当たり前の日常を過ごし、地域の良さを意識することも少ない。また、地球環境の現状を知りつつも自分たち目の前の環境について関心を寄せることなく生活をしている。

そこで、年間を通して教科・領域の中で環境教育を意識して連携することで、児童たちが地球環境の現状に課題意識をもって見つめ、身近な環境の改善のために小学校5年生として、何ができるかを考えさせ、切実感をもって自分にできることを実践していく姿勢を育てていきたい。

(2) 児童の実態から

学校の周囲はマンション群に囲まれ、さらに東に、南にと、戸建て住宅がどんどん建設されている。ほとんどが全国から引っ越してきた新しい住宅であり、経済的に恵まれているが地域や住民同士の関係は希薄である。児童は4教科を中心とした知識・理解の能力は高い。授業においては、正解や教師が求めているであろう正しい考えを探り答える児童が多く、本音が出にくい。また、人間関係の希薄さや表現力不足から、友だち同士で関わる場面では人と人との距離感やコミュニケーションがうまくとれず、何か問題が起きても自分と直接関係がなければ関わっていかうとしない面も見られる。このような中で良い人間関係を持ち、ともによりよく生きる気持ちや態度が重要になってくる。

そこで各教科の授業や総合的な学習の学習において問題解決的な学習を工夫することにより、未来の地球のために環境に関する事柄に興味・関心を持ち、自ら関わろうとする態度や環境への思いを仲間とともに共有し、自分たちのこととして大切にできる児童の育成を目指すことに重点を置き、本研究主題を設定した。

3 研究仮説

エコプロ2018への参加を通して、児童相互の積極的な関わりを生み出すような活動の場を工夫すれば、身近な環境について主体的に考え議論し、自己のよりよい生き方について考えが深まるであろう。

○環境問題について、一人ひとりが自分のテーマを設定することで、興味あるテーマについて探求し、自分自身の考えをもつことができると考える。

- ・導入時の視聴覚教材の活用と学習環境の充実
- ・他教科との連携

○目的意識をもって、まとめの学習を行うことで、伝え合う活動がより充実し、自分の考えを深めることができると考える。

- ・まとめの発表の仕方の工夫（学年交流・他学年交流・保護者参観）

3 研究内容・実践

(1) 教科の学習内容と環境教育との関係（5学年 主な学習計画）

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語科		わが町のベストスリーをきめよう	新聞を読もう		意見こうかん会をしよう		世界遺産白神山地からの提言				
社会科			くらしを支える食料生産	これからの食料生産とわたしたち		自動車をつくる工業	自動車工場見学	これからの工業とわたしたち	わたしたちの生活と森林	環境を守るわたしたち	自然災害を防ぐ
理科	天気の変化						台風と天気の変化				
総合的な学習	印西市広報部原小課	小見川自然教室				エコプロジェクト 進めよう僕らのエコプロジェクト	エコプロ参加			飛び出せ 世界へ	
道徳		トキのまう空							知床の自然	姫路城	
家庭科			身の回りをかたづけよう						じょうずに使おう		寒い季節を快適に

(2) 総合的な学習の時間と他教科との関わり (5 学年 主な指導計画)

活 動	内 容	他教科との関わり
印西市広報部原小課 小見川自然教室 (24時間)	○印西市が住みやすい街ナンバー1に選ばれた理由について考え、身の回り環境について調べる。 ・図書館ライブラリー (印西市史跡) ・タブレットの準備	国語科 ・「わが町のベストスリー」を決めよう (印西市のベスト3を紹介) 情報教育 ・インターネットの使い方 ・印西市と香取市のホームページへのアクセスの仕方
	○自然教室に行き、小見川の様子を観察し環境について調べる。 ・デジタルカメラ撮影資料	情報教育 ・デジタルカメラの使い方 ・資料の保存や印刷の仕方
	○香取市 (小見川) と比較し、印西市の良さや改善点を考え整理したことをパンフレットにまとめ意見交換をする。 ・白地図 (千葉県・印西市・香取市) ※パンフレット展示 (廊下展示)	国語科 ・発展「町じまん」を一つ選んで、すいせんしよう (印西市自慢パンフレット)
進めよう僕らのエコプロジェクト エコプロ2018への参加 (24時間)	○自分たちの身の回りで起こっている環境について、関心あるテーマを決める。 ・ビデオライブラリー (身近な環境問題)	理科 ・天気の変化 ・台風と天気の変化 道徳科 ・トキのまう空
	○テーマについて調べ、未来の地球のために自分たちができることを考える。 ・図書館ライブラリー (環境問題) ・タブレットの準備 ※ミニブック紹介 (低学年に紹介)	国語科 ・新聞をよもう 社会科 ・自動車をつくる工場 (自動車工場見学) ・これからの工業とわたしたち (人間と地球にやさしい製品企画) 情報教育 ・エコプロ2018ホームページへのアクセスの仕方
	○テーマをもとに調べたことや自分たちが今できる取り組みをグループごとに紹介し合う。 ※新聞やフリップによる発表 (学年発表)	国語科 ・意見こうかん会をしよう (資料提示しながらの発表)

	<p>○自分たちが考えた環境への取り組みをもとに、企業や団体の取り組みを学ぶ。 ※エコスタディノート作成（ポートフォリオ） ※環境についての話を聞いて（手紙）</p>	<p>社会科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの生活と森林 ・環境を守るわたしたち（エコプロ2018参加） ・自然災害を防ぐ（ゲストティーチャー講話）
<p>飛び出せ 世界へ 海外の世界遺産を紹介しよう (16時間)</p>	<p>○日本だけでなく世界には、未来に伝えていきたい場所や物があることに気付く。 ・図書館ライブラリー（世界遺産）</p>	<p>国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産白神山地からの提言
	<p>○どこの国でいつ、どのような理由で世界遺産になったのか調べる。 ・タブレットの準備</p>	<p>道徳科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知床の自然 <p>情報教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な資料の印刷の仕方
	<p>○その世界遺産がどのように守られ、受け継がれてきたかを調べ自分たちが思ったことをまとめる。</p>	<p>道徳科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姫路城
	<p>○調べたことをもとに、未来に向けて考えたことを友だちに伝え合う。 ※ポスターセッション（保護者参観）</p>	

(3) 総合的な学習の実践（5学年 主な実践）

①印西市広報部原小課 小見川自然教室

学習を始める前に、千葉県内の様々な特色ある写真を見ながら、千葉県地図のどこにあるかを調べた。児童たちは、写真を見て名前や場所を言い当てることはできるが、地図のどこにあるかを見つけることに苦戦をしていた。5年生の自然教室の場所である「小見川」についても同様で、児童の多くが同じ利根川沿いの市町村であることを知らなかった。また、印西市のベスト3を紹介する学習では、6年連続「住みやすい街」に選ばれ、人口10万人を突破していることなど話題の多い「印西市」を紹介することに悩む様子が見られた。そこで、図書室の史跡や4年生の学習で使用した「みんなの印西市」など身近な地域の環境を見ていくことにした。学校での声掛けを受け、5月の連休などを利用して、地域の交流活動に参加したり、家族で散策をしたりするなど積極的な行動が見られるようになった。印西市に住みながら地域の良さに気付くことがなかった児童たちが、学習を通して、地域にある田んぼにも目を向けていた。地域の自然と触れ合うことが少なかった児童が、友だちのおじいさんの田んぼにザリガニ釣りに行ったことを日記に書いていた。今までなかった身近な自然に関心をもち地域の良さを再確認する児童もいた。まとめとして、パンフレットを作成することで自分の知り得た情報を友だちに広めることができた。また、自然教室に行き、小見川少年自然の家周辺のウォークラリーを通して、川周辺の自然や街並みの様子など利根川流域の土地を利用した生活にも気づき、自分たちの市と小見川を比べながらそれぞれの良さを調べることができた。

②進めよう僕らのエコプロジェクト エコプロ2018への参加

学校周辺には田んぼや畑、雑木林に小川が流れている。しかし、児童の遊びの活動範囲には、ほとんど入ることがない。学校生活の中でも、周辺の自然に目を向けることは、生活科の1学年で行った公園探検や2学年の学区探検と虫探しである。整備された公園や道路には、季節ごとに花が咲くなどの環境はあるが、5年生の児童にとって興味や関心は薄い。また、学校教育の中で、校外に出て自然と触れ合いながら環境に目を向けさせることも、児童の人数やサポート体制などを考えると現状では難しい。そこで、身近な環境を学校生活の中で見つけることで「環境」の問題に向き合えるようにできないものかと考え、エコプロ2018への参加を計画した。2学期は、社会科の自動車工場への見学や猛暑や残暑に苦しんだ夏休みの天気や気象現象についての理科学習と合わせて、総合的な学習と連携をして学習を進めた。また、まとめとして、東京ビックサイトで行われたエコプロ2018では、様々な企業の環境への取り組みについて知るだけでなく実際に目にして体験できる機会を設けた。児童たちに学習の見通しをはっきりさせることで、「自分たちができる環境にやさしいこととは、いったい何だろうか。」と問題意識をもって一人一人がテーマをもとに取り組むことができた。特に、自動車工場の見学では、大切な地球を守るために様々な取り組みをしていることを知ることができた。リサイクル活動など児童にもなじみのある活動ではあるが、実際に行動に移すまでに至っていなかったり、家庭で行っていても関心がなかったりしていた。それが、近所のスーパーに、リサイクル用の分別コンテナが設置してあることを話題にするなど視野が広がってきた。中には、家庭で食材の入っていたトレーを出していたことを思い出し、話し合いの中で、リサイクル用の分別コンテナが学区周辺にはいくつもあることを知らせていた。調べる活動では、市の図書館ライブラリーの協力を得て、事前に参考となりそうな書籍を用意することができた。しかし、書籍・新聞・インターネット資料など5年生の児童にとって難しい言葉も多く苦勞する場面も多く見られた。テーマごとの発表では、同じテーマでも少し考え方が異なることや、テーマが違って最後に感じたことが同じだったことがあるなど自分と違う意見にも真剣に聞き入る様子があった。最後にエコプロ2018に参加することで、身近な商品の中に環境に気を付けていることが多くあり、規模は違うが、自分たちの考え方や共通点があることに気付くなど、充実した活動となった。

③飛び出せ 世界へ 海外の世界遺産を紹介しよう

今までの学習の中で、自分たちの暮らしが便利になることで、地球環境に少なからず影響を及ぼすことを実感してきた。3学期に入り、国語科と道徳科に白神山地・知床の自然・姫路城と日本の世界遺産について学習する機会を得ることで、これからの未来のために仲間とできることを考える態度が見られた。そこで、日本だけでなく世界にも、未来に伝えていきたい場所や物があることに目を向けさせ、海外の世界遺産を紹介する場を設けた。ここでは、世界遺産を含む環境をどのように守り、人々に受け継がれたてきたのかを調べポスターを作成し発表する。最後の発表は、調べたことをもとに、未来に向けて自分が考えたことを友だちや保護者に伝え合う。ポスターには、キーワードのキャッチフレーズを添えて説明を行う。特に、対話的な発表を意識して、説明だけでなく、聞き手に問いかけるなど相手を大切にしながら行えるように、国語科で学習した知識や表現方法を活用した。一人ひとりが心惹かれる世界遺産を

調べることで、人々が遺産を守り続ける経緯や未来の自分たちとどうつながっていくのかを主体的に考えながら取り組めた。さらに、自分たちの生活と直接つながらないことも、自分たちの生きていく中でどんな関わりがあり未来にどうつながるのか真剣に向き合うことができていた。

(4) 外部人材の活用

エコプロジェクトに合わせて、IPCC レポートコミュニケーターの先生に講話をお願いした。初めての試みであるため、児童の学習内容や総合的な学習で行っている活動の内容なども連絡を取ってきた。その中でも、小学校5年生の教科書内容を確認や、「エコプロ2018」に参加する児童たちを会場での見守りなど学習全体をサポートしてもらったことは大きな成果がみられた。児童たちは、エコプロジェクトについて関心を高め、現実の生活に広げることに役立てようとすることができた。講話に向けての事前打ち合わせは、小学生であることや人数が多いことも考慮し、会場の設営や準備など必要なことを細かく確認することで、当日の活動はスムーズに行うことができた。「今、地球に起こっていることとは」と題しての講話は、夏休み中に実際に起こったスーパー台風が話題にあがった。理科で学習した、天気図や台風の雲の映像を見ることは、児童たちの興味をかきたて学習への関心が高まった。事前に学習内容を調べ、児童に合わせた話題にしてもらったことから、より児童に身近に起こりうることであり、自分たちの生活に深く関わっていることを実感できた。講話後の質問では、「温暖化対策として、木を植えようとするが自分たちにはどうしていったらよいのか。」「二酸化炭素を自然が吸収する量だけ排出するべきと言われたがその量はどのくらいなのか。」といった環境に関する問題に自分の生活とつなげてどうしていくべきなのかを自分たちなりに問題意識をもつことができた。学習後も、質問の回答や資料を届けてもらうことができ、児童の学習が充実したものとなった。教師も資料を用意したり、事前に下見や勉強をしたりしてきているが専門性を有する人材の手助けは有意義なものがあった。今回、お世話になることになった講師の先生とは、環境教育の研修会での出会いであった。人材を探すことは、大変な時間や労力を費やすことになるが、いい出会いが今回の学習に大きな良い影響をもたらしてくれた。

4 成果と課題

(1) 成果

- 今まで環境について多くの児童が深く意識することなく生活してきたが児童が、自分たちの生活を取り巻く地域の良さを再確認するなど「環境」についての意識が高まった。
- 総合的な学習の時間を軸にした、他教科・領域の横断的なつながりを大切に、年間指導計画を確認したことで、学びをつなげながら、自らの考えを深め、広げる姿が見られた。
- 活動の前に一人ひとりがテーマをもち、情報収集・整理・分析を行い、個人調べから少人数の模擬発表、まとめの発表と問題解決学習を取り入れたことで、主体的に考え話し合う児童が増えてきた。
- 校内で行っている、ペットボトルキャップの回収や牛乳パックの回収活動に積極的に取り組む児童が見られた。

○外部人材の活用では、児童の発達段階や各教科の指導内容など事前に連絡し合うことで、児童の実態に合わせて限られた時間の中で充実した活動を行うことができた。

(2) 課題

○地域との連携が不可欠であり、地域人材の活用が重要であった。そのための、人材発掘が必要である。

○身近な環境に関心をもてるようになったことを次年度に継続発展させていくためにはどうすべきか考える必要がある。

○他教科・領域と環境教育との関連を図り、環境教育の視点をもって実施できるよう発信していくことが必要である。

『 資 料 』

No.

ゴミ問題 (のちへ)

私達の朝への日は、ゴミ増加の原因に、い

ゴミが増える原因は、

有害な物は、

ゴミの発生は、昭和の前半に比べて、ふえ

て、ゴミの発生量は、昭和の前半に比べて、

10倍に増えています。昔から命に代

わらず、ゴミを増やして、ゴミを減ら

す、いろいろな方法で、地球温暖化に

対するようになっています。

最後に終わりの言葉です。

地球温暖化のたい
 さくを意しきしようと思いま
 した。
 エネルギーや二酸化
 炭素についても、とりた
 いでです。



大気汚染・取り組み

移動発生源対策 (自動車排出ガス規制など)

大気汚染物質の発生源には自動車船舶航機などの移動発生源があります。

原因

どうして空気がよくなるの？

PM2.5という大気中に浮遊している物質の発生源

- ホウや煤や伊豆の煙や交通機関の排気
- 海や火山の噴煙など自然由来の
- 喫煙や調理ストーブの使用など家庭からのガスによって作られる

このようにガスを使えば大気汚染はよくなる。

NOx

NOxとは？

自動車から排出される窒素酸化物

電気をめいにする、白熱球からLEDに切りかえる、おじりのエアコンの室内機を天井におく、せんとくものはめい前らに取る、入りそうこのあけしめをへらしめをつめこまら、エアコンのフィルターをこする

地球温暖化

原因

温室効果ガスが増えすぎると地球が熱くなる

影響は世界各地に及び、日本でも地球温暖化と被害が多くなっている。

絶滅危惧種

約二万四千種

まとめ

温室効果ガスが増えて地球の温度が上がる現象を地球温暖化という。

自分たちができること

- 使っていないコンセントは抜く。
- エアコンの設定温度を低くする。

↓

電気の節約

原っ子エコプランを作ろう！

☆環境問題といえば、何が思い浮かびますか？

絶滅危惧種
地球温暖化 森林ばっさい 産廃 発電(火力)
オゾン層 大気汚染 酸性雨 異常気象(原子力)

☆DVDを見て、どんなことを感じましたか？(感想)

CO₂が大きな岩からできているということがわかりました。CO₂はただ岩からできているのではなく、小さな虫などが化石となり土ががぶこってできていることもわかりました。

1. エネルギー問題 (水力、風力、地熱、太陽光)
2. 生物種の絶滅 ()
3. 森林破壊 ()

☆学習の流れ

- ①身の回りにどんな環境問題があるか考える。
- ②自分の調べていくテーマを決める。
- ③テーマについて調べる。(本・新聞・インターネット・テレビ等)
- ④同じテーマについて調べている友だちと集まって、話し合う。(発表方法・分担等)
- ⑤自分のライフスタイルを見直し、自分たちができていることを考えてまとめる。
- ⑥発表準備をする。(効果的に伝えるには?)
- ⑦発表会をし、友達に伝える。

原っ子エコプランを作ろう！

☆環境問題といえば、何が思い浮かびますか？

エネルギー(二酸化炭素)

☆DVDを見て、どんなことを感じましたか？(感想)

僕は毎日今も二酸化炭素を出していることがわかりました。なのでまずは自分自身から減らさないと気がつけませんと思いました。

1. エネルギー問題
2. 生物種の絶滅
3. 森林破壊

☆学習の流れ

- ①身の回りにどんな環境問題があるか考える。
- ②自分の調べていくテーマを決める。
- ③テーマについて調べる。(本・新聞・インターネット・テレビ等)
- ④同じテーマについて調べている友だちと集まって、話し合う。(発表方法・分担等)
- ⑤自分のライフスタイルを見直し、自分たちができていることを考えてまとめる。
- ⑥発表準備をする。(効果的に伝えるには?)
- ⑦発表会をし、友達に伝える。

海洋汚染と解決法

海洋汚染?

海洋汚染とは、沿岸部だけの問題でなく地球全体の環境問題です。

<原因>

人間に有害な物が人間により、海に運ばれてしまふ事で生き物への被害もあります。

<現状>

平成27年には、海洋汚染の被害件数が425件でした。

<解決法>

- ①袋を持参する。
- ②ポイ拾いをしない。
- ③一人ひとりがバカける。わたしたちができること



陸海関係なく、ポイ捨てしない。

外来種について

<外来種が来る原因>

ペットや家畜緑化人や物が移動するときにそれらの天敵などの目的で野外に放され植栽されるケース。(意図的)

人や物が移動するときにそれらに付着混同または寄生するなどして、他の地域に導入されるケース。(非意図的)

<外来種の種類>

- ① アライグマ
- ② カイウサギ
- ③ ヌートリア
- ④ カミツキガメ
- ⑤ グリーンアノール
- ⑥ フルギル

私達に出来る事

- ① 捨てない!
- ② 入れない!
- ③ ひろげない!

ゴミ増加の原因は?

ゴミ増加の原因は...

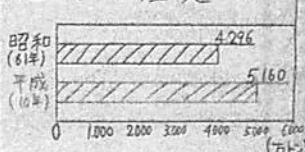
容器の移り変わりのせい!?

このように、昔と現在では容器の違いがわかります。

有害廃棄物

ほとんどの有害廃棄物は、工場で作られたせいになっている。

ゴミの歴史

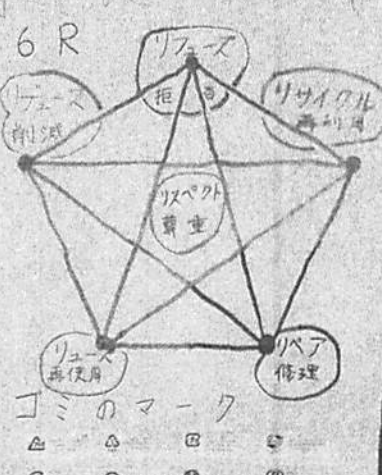


ゴミの排出量は増えている。

(ごみを減らすには?)

- ・なるべくふくらは持てくる。
- ・資源ごみをすてない。
- ・ごみなどをポイ捨てしない。

ゴミ問題について



私たちにできること

1. ゴミリサイクルについて
2. カをわせよう。
3. やってみよう。



見学当日 | チャレンジ3 企業 / 団体にインタビューしよう! ③

選んだ企業 / 団体の名前: マニフレックス 小問番号: 3-

選んだ理由・質問したいこと

エコな寝具は自分で簡単に作れますか?

ブースで学んだこと

会社「エリエセル」がエコで使われた理由は

水。

思った・感じた・考えたこと

ネットにすれば、団体のとやあ、気持ち良かった

絵を、変えてみる。

見学当日 | チャレンジ3 企業 / 団体にインタビューしよう! ④

選んだ企業 / 団体の名前: びくりドンキー 小問番号: 3-

選んだ理由・質問したいこと

エコは、何でもできますか?

ブースで学んだこと

生ごみや/Aに30kgを機械で粉々にすると肥料になる。

生ゴミが増えるように、小学生までの人でイベントをやる。

思った・感じた・考えたこと

びくりドンキーでもリサイクル等を行っていた。

かばんも箱でもぬれた、バックにしている。

見学当日 | チャレンジ3 企業 / 団体にインタビューしよう! ⑤

選んだ企業 / 団体の名前: 休ン 小問番号:

選んだ理由・質問したいこと

ブースで学んだこと 3つの挑戦をしている。

目標を成功させるために、1960年代から挑戦している。

目標は食品廃棄物を減らす。肥料にする(売れ残った野菜)農場で使う。

小売を中心とした多様な事業を通じて、社会が抱える様々な課題の解決に取り組んでいる。

休ンで、昔からの問題も防ぎようとしていた。

びくりドンキーと同じ野菜(残り)を肥料にしていた。

見学当日 | チャレンジ3 企業 / 団体にインタビューしよう! ⑥

選んだ企業 / 団体の名前: 小問番号:

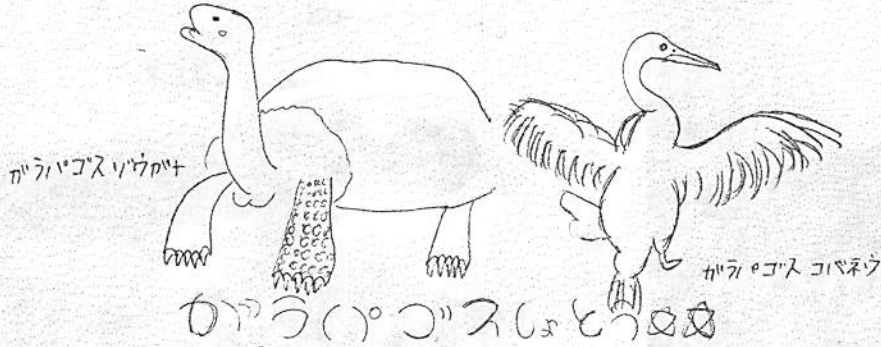
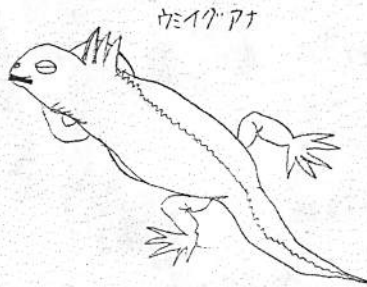
選んだ理由・質問したいこと

ブースで学んだこと

思った・感じた・考えたこと

ふしぎな動物たちの

楽園



1 枚目
~森林破壊を止めようには~
* 雑誌や新聞を断り買い物ぶくろをまわす。
* 再生品、リサイクルを買うこと。
* 紙コップなどの使い捨てものは
* 早く捨て替わす。お家のゴミを減らす
~森林破壊の原因~
1位 焼き畑
2位 伐採
3位 酸性雨
~伐採された木の利用方法~
1位 間伐
2位 けんちく
3位 せいの紙
1位の間伐は自分たちの生活を救済するためにあつた。
2位のけんちくはみんながけいぞくをむだづかいの紙の代わりにして
3位のせいの紙はみんながけいぞくをむだづかいの紙の代わりにして

